

# CHOHO

広報誌【長報:チヨ-ホ-】

Vol. **30**

2010 January Winter

Since 2002



特集

地域へ、世界へ、発信する「知」 **長崎大学がめざすもの**

地域へ、世界へ、発信する「知」

# 長崎大学が めざすもの

2010年がスタートしました。

いま社会は、大きく変化しています。

そんな中、長崎大学では新しい時代の大学の姿をめざして、

さまざまなプロジェクトを展開しています。

それは、自らへ、地域へ、世界へ発信する新しい「知」。

今回は、そんなプロジェクトを推進している各リーダーたちに、

それぞれのいまとこれからを語っていただきました。

## CONTENTS

### 【特集】

地域へ、世界へ、発信する「知」  
長崎大学がめざすもの

..... 0

【学生国際 NGO BOAT の  
「3カ月里親プロジェクト」】

..... 8

【「葉 國璽」私費外国人留学生奨学金の  
創設に寄せて】

.....10

【日中大学院生ジョイントセミナー】

.....12

【長崎県の近代化遺産シリーズ4】

交通の近代化と東アジア国際リゾート・雲仙

.....15

【長大ニュース】

.....18

【ボードイン・コレクション】

幕末・明治を知る西洋の男たち  
若き日のオーマス・グラバー

.....20

【インフォメーション】・【編集後記】

.....21

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、  
「長崎大学広報誌 CHOHO 号から」と明記して  
ください。学外の方は、事前に広報企画委員会ま  
でご連絡願います。

## “CHANGE”の方向性は個性化です

あけまして、おめでとうございます。さあ、2010年はどんな一年になるのでしょうか。楽しみです。昨年は、21世紀の地球や人類の未来を拓くためには“CHANGE”が必要であることを皆が認識し、そして世界でも日本でも変化へのうねりが始まった年でした。一方で、本当の“CHANGE”を達成するには熟慮と余程の覚悟が要ることも学びました。今年は寅年です。寅のごとく注意深くそして時に猛々しく未来への扉をこじ開ける、そんな一年にしたいものです。

長崎大学も変わろうとしています。長崎大学の“CHANGE”の方向性は個性化です。知識人として身につけるべき一般的な“教養”や教師、医師、歯科医師、薬剤師、技術者、経営者などの専門家として必要な最低限の知識と技（わざ）を学生諸君に教えることは大学の大きな役割です。しかし、それだけでは大学が存在感をもってグローバル化する21世紀の社会に貢献することはできません。長崎大学でしか受けられない魅力ある授業、世界の中でキラと光るユニークで先端的な研究、あるいは若者たちが夢を育むための長崎大学ならではのキャンパス環境、それら一つひとつが大学の個性をかたちづくれます。個性あふれるキャンパスには多様な才能が集まり、そこからは多くの知や人材が世界に向けて発信されます。長崎大学にはいま、そんな個性がたくさん生まれそして育ちつつあります。今回のCHOHOにはそれらが満載されています。

長崎大学長

**片峰 茂**

Katamine Shigeru

“CHANGE”の方向性は個性化です  
片峰 茂 長崎大学長 Katamine Shigeru

### 放射線医療科学

山下 俊一 教授 Yamashita Shunichi

### 東アジア金融市場の研究

須齋 正幸 教授 Susai Masayuki

### 若手医師の教育

調 漸 教授 Sirabe Susumu

### 男女共同参画推進

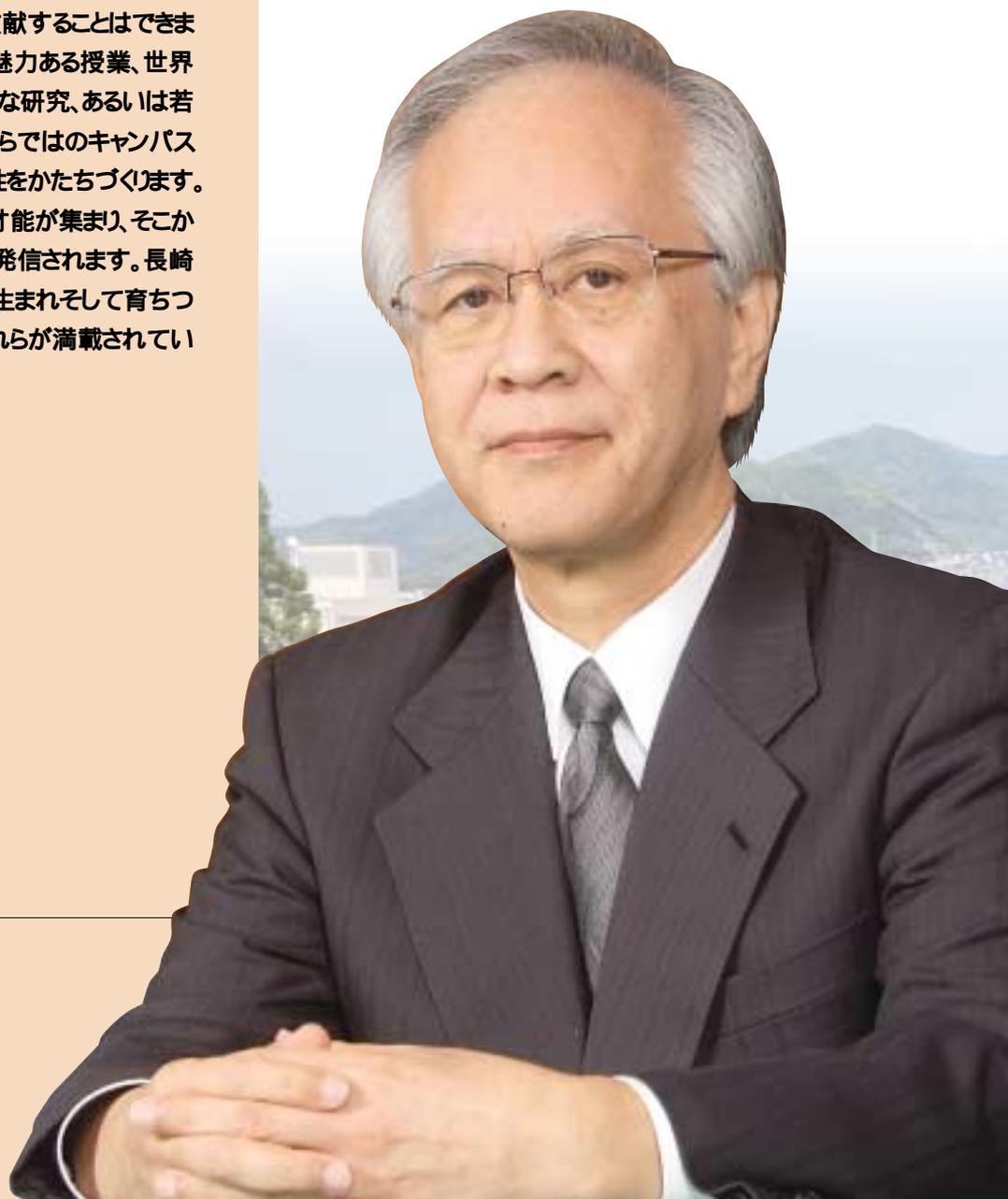
大井 久美子 教授 Oi Kumiko

### テニユア・トラック助教

中山 浩次 教授 Nakayama Koji

### 感染症の制御と克服

平山 謙二 教授 Hirayama Kenji





原爆被爆直後の潰滅した長崎医科大学附属病院。放射線医療の原点ともいえる風景。

## 目標は、「平和共存」。人間の「健康リスク管理」を世界へ発信。

### 放射線医療科学

**身** 身近な自然の中にも存在する放射線は、人が生きる上で避けて通ることのできないものです。しかも近年では、世界各国で原子力発電所が建設されており、そこで働く人や周辺地域の住民の健康問題、また医療放射線(検査や治療のために医療機器を通して浴びる放射線)の問題など、「放射線の健康リスク」は世界全体に広がっています。

そうした中、放射線医療の専門家である私たちは、研究に集中するあまり、長い間、その成果を社会へうまく還元できていませんでした。それを反省し、生まれたプロジェクトが、3年前文部科学省のグローバルCOEプログラムに採択された、「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」です。これは、広島・長崎で培ってきた原爆医療の経験を、もっと直接的に社会に活かそうというもので、本学の教育・研究拠点の中核に位置付けられています。

①国際放射線保健医療分野 ②原爆医療分野 ③放射線基礎生命科学分野の3本柱で推進しているこのプロジェクトのキーワードのひとつが、「健康リスク管理」です。健康に被害を及ぼす放射線をどのように予防・防止するか、あるいは放射線による事故が起きないようにするためにはどうしたらよいかなどを研究・調査します。これらの活動は、WHO(世界保健機関)やIAEA(国際原子力

機関)など、国連の機関と直に仕事をして世界中に情報を発信しています。こうした中で、放射線や生命科学のブローカーを育成し、同時にあらゆる分野に横断的な知識を持って政策にも通じ、国際的に活躍できる「人」を育てています。

1945年8月9日、長崎に原爆が投下されたとき、長崎医科大学(長崎大学医学部前身)でも多くの犠牲者が出ました。同附属病院で被爆した永井隆博士は、大けがを負いながら必死に被災者の救護にあたりました。そんな永井博士が教えてくれたのが、「平和共存」です。国、人種、政治、経済、医療...、あらゆる境や分野を越えて、助け合い、活かし合う。これは、人間を守る研究プロジェクトがめざす最終的な目標でもあります。

医歯薬学総合研究科長、  
同附属原爆後障害医療研究施設長

山下 俊一 教授  
Yamashita Shunichi

放射線健康リスク制御国際戦略拠点

<http://www-sdc.med.nagasaki-u.ac.jp/gcoe/>



長崎大学大学院経済学研究科が主催する「アジア金融市場国際カンファレンス」。第一線で活躍する世界各国の研究者が長崎に集まり、東アジアの金融・会計の制度や実務の状況、動向、課題について研究成果を発表している。毎年12月に開催され昨年で第5回目を迎えた。

## 欧米とは違う、アジアの文化に合った経済システムがある。

### 東アジア金融市場の研究

アメリカを中心とした経済システムが行き詰まり、世界的に景気が低迷する中、アジアの経済が新たな注目を浴びています。儒教や仏教などが文化の背景にあるアジアの国々には、明らかに欧米とは違うものの見方、考え方があり、経済システムもその文化に応じたものが模索されはじめています。そのような時代の潮流をとらえた研究が、長崎大学経済学部「東アジアにおける最適な金融システムの研究」です。東アジアの市場を取り上げている理由は、アジアの経済を牽引するのは、この地域に位置する日本・中国・韓国の金融市場だからです。

長崎大学の重点研究課題として平成18年度から本格的にスタートしたこの研究の目的は、中国や韓国など現地の市場に赴いて、その地域における制度、取引慣行、市場参加者の特徴などの市場特性を把握し、多様性を有するアジアの金融市場を適切に分析するための独自モデルを開発することです。調査・研究は、中国(西南財経大学・復旦大学・上海財経大学)や韓国(延世大学)の大学との研究ネットワークおよび東京証券取引所の協力を得て行っています。将来的には、開発したモデルを通して、アジアの金融市場を取り巻く課題を明らかにし、実効性の高い市場改革の政策を提言していきたいと考えています。

この研究の一環として、平成20年度には「新興金融市

場分析の専門家育成プログラム」が文部科学省の大学院教育改革支援プログラムに採択され、新しく「アジア市場分析・Ⅱ・Ⅲ」という講義科目が開講したほか、長崎大学の大学院生が西南財経大学を拠点に海外フィールド研究を行うなどしています。

ひとくりにアジアといっても、国や地域によって文化や風土が違います。ですから、まず、アジアの国々の経済の違いや似ているところをしっかりと見極めていかなければなりません。そのためには、地域のマーケットや人々の暮らしなど、現場を見ることが重要になってきます。データだけではくみ取れない大事なことがそこにはたくさんあります。現場を重視したこのプログラムの教育・研究を通して、将来、アジアに位置する金融市場で活躍する人が生まれることを期待しています。

理事(総務担当)  
副学長(企画・学長室担当)

須齋 正幸 教授

Susai Masayuki

東アジアにおける最適な金融システム

<http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/eastasia/>

地域へ、世界へ、発信する「知」  
長崎大学がめざすもの



病気を診るとき、患者さんがどんな環境で暮らしているのかを知ることが、とても重要だ。

在宅医療の患者さんを巡回する平戸病院に常駐する中桶准教授と研修医。研修では、健診活動、病気予防の啓発活動、病院の救急体制の整備なども経験する。  
(写真大/西日本新聞提供)

平戸島

## 島の病院で、医師になることを決意した原点と出会う。

### 若手医師の教育

**過**疎化が進む地域や離島・へき地の病院は、深刻な医師不足に悩みつつも、街の中の大病院にはない家族的な雰囲気と、のびやかな活気があります。その良さを活かして若手医師を育てようというプロジェクトが、長崎大学の「へき地病院再生支援・教育機構」です。

中心となる舞台は、長崎県北部に位置する平戸島の「国民健康保険 平戸市民病院」です。平戸島は人口約2万2千人の島で、病院は数力所しかありません。多くの島民が医療や福祉の十分なサービスを受けられずにいます。

ところで、大学の医学部を卒業したばかりの若い医師は、初期研修(2年)が義務づけられており、研修先は都市部の管理研修型総合病院が人気です。その後、医師としてのさらなる基礎固めとして、後期研修(1~

2年)という段階があります。このプロジェクトは、主に後期研修のためのプログラムを組んでいます(初期研修内の地域医療研修にも対応)。

プロジェクトの基本的なスタンスは、「何でも診ることのできる医者(=総合医、かかりつけ医)を育てる」です。自分の専門以外の患者さんにも柔軟に対応できる技量を養います。また、地域住民全体の健康状態を診る「地域診断」ができる医師もめざします。そして、看護師、理学療法士、作業療法士、保健師、地域の行政も巻き込んだチーム医療、いわゆる多職種間連携で患者さんを診る力を養っていきます。

この「へき地病院再生支援・教育機構」は、文部科学省の「地域医療人育成GP」の指定を受け平成17年からスタートしました。現在は、長崎県や平戸市の支援のもとで事業が継続されています。最近では、プロジェクトの質の高さが認められ、京都、大阪、神戸、長崎などの総合病院から、研修医を相次いで受け入れています。島の人々の心や生活にもふれる地域医療は、医師になることを決意した原点を改めて思い起こさせます。若い医師たちが将来、島などで活躍してくれれば本望ですが、そうでなくても、生涯にわたって忘れることのできない貴重な経験をすると思っています。

大学病院 へき地病院再生支援・教育機構  
理事(研究・社会貢献担当)  
副学長(研究担当)

調 漸 教授  
Sirabe Susumu

大学病院 へき地病院再生支援・教育機構  
<http://hekichi-byoinsaisei.net/>



多様性を尊ぶ教育・研究環境の中で、志すのほ「高きより高きへ」そのためには、個を尊重して協力し助け合う環境づくりが大切だ。

## 女性研究者を増やし、男女とも働きやすい職場環境を創る。

### 男女共同参画推進

**近**年、女性の社会進出がめざましいといわれていますが、日本は、国会議員や企業の管理職の女性の割合が先進国の中でもかなり低いなど、まだまだ女性が活躍できる場が少ない男性中心の社会です。今後、女性の能力をもっと社会に活かしていくべきなのはもちろんですが、まず、男性と女性が職の機会を平等に得るという当たり前のことを当たり前にしていく社会をめざして、私たちの意識を変えていく必要があるようです。

長崎大学の場合も、教員総数1,025人のうち女性研究者(教員)の数は153人、その割合は14.9%と圧倒的に男性が多いのが現状です。特に自然科学系の工学部、水産学部、環境科学部、また医歯薬系では薬学部が極端に少ない。また、大学全体の学部生数の女子が占める割合は37%ですが、女子大学院生になると26.9%に減ります。これは、

副学長(男女共同参画・安全管理担当)

**大井 久美子** 教授  
Oi Kumiko

身近にロールモデルがないことから、将来、研究者になりたいと思う人が少ないためと考えられています。こういった現状は本学だけではなく、日本の大学全体の傾向でもあります。

長崎大学では、今年度、文部科学省科学技術振興調整費事業「女性研究者支援モデル育成」の採択を受けて、「おもやいキャンパスサポート～長大モデル～」がスタートしました。これは、女性研究者が、研究と出産・育児などを両立し、研究活動を継続するための支援を行う取り組みです。相談体制の整備や啓発活動をはじめ、学内の学生ボランティア組織「やってみゅーでスク」と連携し、女性研究者の要望に応じた育児サポートを行うなど、さまざまな支援が予定されています。

さらに、女性研究者を増やすために教員新規採用者の30%を女性とするほか、女子高校生へ向けて研究者という職業の魅力を伝える出前講義なども行う予定です。また、男性の育児休業取得率のアップを図り、教員の勤務時間を柔軟に調整できる制度の導入も検討しています。

こうした活動の拠点となるのが、この春、文教キャンパスに開設される「男女共同参画推進センター」です。女性研究者が働きやすい環境づくりを通して、男女共同参画の意識を高め、職場全体の環境改善につなげていきます。

男女共同参画推進センター

<http://www.cge.nagasaki-u.ac.jp/>(HPは1月末開設予定)



藻場の生理生態学的機能への波の影響を調べるため、海中に機材を設置するグレゴリーさん。  
「海藻の生物学を学際的なアプローチで、独創的かつ自由に研究できる」と息込みを語る。

## 近い将来、長崎大学の中核を担う研究者たち。

### テニュア・トラック助教

**写** 真のウエットスーツの男性は、長崎大学「環東シナ海海洋環境資源研究センター」のグレゴリー・ナオキ・ニシハラさん。藻類と流体環境の関係について調査・研究を行っています。彼は、長崎大学の「テニュア・トラック制」によって採用された「テニュア・トラック助教」と呼ばれる若手研究者のひとりです。この職名は、研究者として将来を期待されていることを意味し、5年間の雇用期間中、資金や環境など独自の研究活動のための支援を受けることができます。

テニュア (tenure) とは、「定年までの安定的雇用」を意味し、トラック (track) は「道」を意味します。「テニュア・トラック制」とは、若手研究者が安定的な職を得る前に、期限のある雇用で自立した研究者としての経験を積むことができる仕組みをいいます。こういった制度は、欧米ではすでに確立されていて、世界の一流といわれる研究者は、若い時期に自立した立場・環境下でその研究基盤を築いています。ところが日本の場合、多くの若手研究者が自立した立場や環境にはありません。「テニュア・トラック制」は、そういった状況を打破し、若手研究者を育てる新しいしくみとして注目されています。

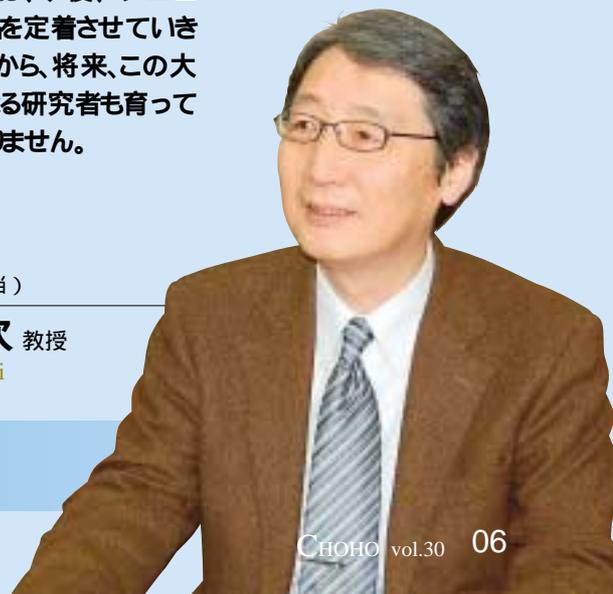
長崎大学の「テニュア・トラック制」は、文部科学省科学

技術振興調整費の「若手研究者の自立的研究環境整備促進」事業の採択を得て、平成19年度からスタートしました。現在、12人のテニュア・トラック助教が、本学の重点研究課題の研究室に配属されています。彼らは有期雇用期間中に結果を出さなければ、テニュアは獲得できません。そんな厳しさの中、研究者として重要な評価対象となる学術論文を、主体的に多数発表しています。今回、工学部に所属する濱田剛さんは、昨年11月、「スパコンのノーベル賞」といわれるゴードン・ベル賞(米国電気電子学会)を受賞するという快挙を成し遂げました。

長崎大学は、今後、「テニュア・トラック制」を定着させていきます。その中から、将来、この大学の中核となる研究者も育ていくに違いありません。

副学長(広報担当)

中山 浩次 教授  
Nakayama Koji





ケニアにおけるマラリア対策のために、住民と会合をする熱帯医学研究所ケニア拠点のメンバー。

## 新しい国際協力のかたちを創造しながら、感染症問題に取り組む。

### 感染症の制御と克服

**新**型インフルエンザの流行で、今まさに人々の関心を集めている感染症。近年では、病原体の進化や、新たなウイルスの出現のほか、地球温暖化、交通手段の高速化や国際貿易の発展などで、一定の地域で起きた感染症があつという間に広がるなどの問題が生じています。つまり感染症は、世界的な視野に立って取り組まなければならない問題なのです。

熱帯医学研究所は、日本で唯一の感染症の公的研究教育機関です。感染症問題の解決のために、世界をリードする研究を行い、その成果を感染症の制圧ならびに世界の人々の健康増進に役立て、さらに、この分野におけるすぐれた研究者、専門家を育てることをめざしています。

現在、5年間(平成15年度～19年度)の21世紀COEプログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」の成果を受け、平成20年度からグローバルCOEプログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」として新たなスタートをきり研究を続けています。

これらのプログラムを通じて、海外における感染症研究のための拠点として、ケニア拠点、ベトナム拠点などが設けられました。現地では実際に感染症の流行する現場での地道な研究・調査が続けられています。これまで、こうした海外拠点の活動を日本の国のお金を使って行うことは、

何かと制限があり、思うように研究が進まないことがありました。しかし、国立大学が法人化したここ数年で、そういった環境も驚くほど変化し、活動の自由度が大きく広がっています。今後、これらの拠点を学生の教育や留学生の受け入れ、現地における人材の養成などにどんどん活用していきたいと考えています。この変化は、新しい国際協力の在り方を切り拓くと同時に、今後の研究をより患者に直結したものにしてくれるに違いありません。

現在、熱帯医学研究所には、いろいろな分野の専門家が研究に取り組んでいますが、さらに今後、世界中から若く優秀な学生や研究者が集うことになっています。感染症を制御し、克服をめざすという壮大なテーマに向かって、多様な個性と能力を持った彼らの相互作用が、これまでになく大きな成果を生み出すと信じています。

熱帯医学研究所所長

平山 謙二 教授  
Hirayama Kenji



熱帯医学研究所

<http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nekken/>



2

1



5



6

4



日本の BOAT のメンバーへの感謝状  
 私たち、バンギの4区の首長達のグループは、本状によって、1年前から栄養失調の子どもたちを支えてくれただけでなく、子どもたちのために医療プランを実施し、衛生的な排水管理をしてくれた BOAT のメンバーに深く感謝いたします。  
 このプロジェクトがなかったら多くの子どもたちが亡くなっていたことでしょう。経済的に困窮している親たちは、子どもに栄養を十分に与えてやることも、衛生管理をすることもできません。それゆえに、私たちが子どもたちに栄養を十分に与え健康管理をしてくれたこのプロジェクトは非常にありがたいものでした。ここに、心からの感謝をあなた方に捧げます。  
 首長たちから友情をこめて



世界の最貧国のひとつ中央アフリカ共和国。BOATの「3カ月里親プロジェクト」は、現地の栄養失調児に対する栄養補助プロジェクトです。スタートから1年目を迎えた昨年夏、現地の首長さんから感謝状をいただきました。

# ポ ー ト 学生国際 NGO BOAT の 「3カ月里親プロジェクト」

※学生国際 NGO BOAT:

2004年のスリランカ津波被災時に、長崎大学や長崎県立大学など長崎の学生たちによって立ち上げられた組織。四川大地震やミャンマーのサイクロンの被災地などでの支援をはじめ、途上地の慢性的な問題に取り組んでいる。

BOAT ホームページ [http://www.geocities.jp/boat\\_students/](http://www.geocities.jp/boat_students/) お問い合わせはEメールで受け付けています [boatotoiawase@live.jp](mailto:boatotoiawase@live.jp)

## ■「3カ月里親プロジェクト」のきっかけ

アフリカ中央部にある内陸国、中央アフリカ共和国。「同じアフリカでも、国によって貧富の差があります。中央アフリカ共和国は、その中で最も貧しいといわれる国のひとつです」と話すのは、学生国際 NGO BOAT の千早啓介さん(医学部6年)です。

「3カ月里親プロジェクト」は、被災地の支援や途上地の慢性的な問題に取り組む BOAT の活動のひとつとして、2008年夏からスタート。内容は、バンギの栄養失調児に栄養補助としての給食を提供するもので、食材費は「3カ月里親」たちからの寄付金で賄います。この寄付金はひとり2,500円で、4カ月ごとに募ります。「金銭的、期間的に一人ひとりの負担が少ないかたちで参加してもらえるのが、このプロジェクトの大きな特長です」と話す千早さん。実は、このプロジェクトの発案者でもあります。



千早 啓介さん  
 (医学部6年)

それは、2007年夏、バンギの診療所へ研修に行つたことがきっかけでした。「現地は貧富の差が激しく、貧しい人々は一日1食。それもあまり栄養価のないものを食べているようでした」。多くの子供たちが栄養失調で病気がかりやすく、病気になるとう回復する体力がないため亡くなつてしまつ子供も少なくありませんでした。「その現状にショックを受け、自分たちにできることを考えたとき、子供たちの栄養状態の改

- 1 食事をとる子供たちの笑顔がプロジェクトの原動力。
- 2 熱帯雨林が広がる首都バンギ。経済の低迷が続いている。
- 3 栄養補助を受けているバンギの子供たちや徳永瑞子先生(右端)と。
- 4 診療所の一角で、子供たちのお母さんが調理を担当。「子供たちは変わった味を嫌います。お母さん方が調理することは、慣れ親しんだ味で栄養補助を行うためにとても大切なこと」と千早さん。
- 5 「3カ月里親プロジェクト」への感謝状をくださった首長さんと磯道さん。
- 6 バンギの診療所で出産の補助も経験した千早さん。
- 7 「3カ月里親プロジェクト」を支えてくれている「アフリカ友の会」のスタッフのみなさん。
- 8 栄養補助の食事を受け、体重測定をする子供。体重のデータは里親さんたちに定期的に届けられる。
- 9 栄養失調が原因で、体がむくんだ子供が多い。
- 10 母親たちに栄養失調に関する啓発教育をしている。
- 11 現地では、トマトベースやコンソメベースの煮込み料理が多い。



善になら、何か力になれるのではないかと  
思ったのです」。

「3カ月里親」の3カ月とは、栄養失調児  
が、栄養補助を受け、体力を養い、再び成長  
をはじめめる目安の期間だといえます。

**アフリカ友の会・  
徳永瑞子先生との出会い**

そもそもなぜ、中央アフリカ共和国だっ  
たのでしょうか。それは、徳永瑞子先生(聖母  
大学)との出会いが導いたものでした。「アフ  
リカ友の会」というNGOの代表でもある  
徳永先生は、中央アフリカ  
共和国で、HIV  
エイズ感染拡大  
大防止やエイズ  
患者、栄養失調  
児、エイズ孤児、生活弱者



**磯道 岳歩さん**  
(工学部2年)

の支援を長年、続けています。数年前、長崎  
大学医学部保健学科で教鞭をとられてい  
た時期があり、そのとき千早さんが徳永先  
生のアフリカの話に関心を抱いたのがきっか  
けでした。「アフリカ友の会」は、バンギに診  
療所も併設した保健センターを設け、医療  
から生活まで、現地の人々のさまざまな支  
援をしています。2年前、千早さんが研修  
に行ったのもこの保健センターの診療所で、  
現在、「3カ月里親プロジェクト」の子供た  
ちへの給食も、「アフリカ友の会」のスタッ  
フの方々の協力を得て展開しています。

**1年後、思いがけない感謝状**

「3カ月里親プロジェクト」のスタートか

ら1年経った2009年夏、BOATの磯  
道岳歩さん(工学部2年)が、現地へ赴きま  
した。「到着して最初に言われたのが、この  
プロジェクトがはじまってから、亡くなる子  
が減ったとか、元気で走り回る子供が多くな  
った、というもの。実際に私もそういう光景を  
目にする事ができました」と磯道さん。

元気な子供が増えたとはいうものの、や  
はりそれはほんの一部。磯道さんもまた、  
栄養失調児の厳しい現実を目にしました。  
「成長が止まり、実年齢よりも体が小  
さい子、タンパク質の欠乏でむくみ、元気が  
なく無表情の子などが、まだまだたくさんま  
す」。

磯道さんが印象に残っているのは、栄養  
状態のひどく悪い子が、自分に差し出され  
た食事を、別の子にも分け与えている姿で  
した。「その子だけでなく、現地の人はみな  
優しい。生活環境は厳しいけれど、バンギで  
過ごした2週間、とても楽しかった。バンギ  
の人々は喜怒哀楽をストレートにぶつけて  
くる気持ちのいい人たちなんです」。

研修を終えようとしたある日、思いがけ  
ず、地域の首長さんからのプロジェクトに  
対する感謝状をいただきました。磯道さん  
は手応えを感じ、大きな励みになったとい  
います。今後も多くの中親さんたちと中央  
アフリカの子供たちとの出会いの繋ぎ役と  
して頑張っていきたい。そして、千早さん  
も「海外に対して何か支援をするということ  
は、実はそんなに難しいことはありません  
興味のある方は、ぜひ一緒に活動しまし  
ょう」。BOATはこれからさらに仲間  
を増やし、息の長い活動をめざしています。

# 「葉國璽」私費外国人留学生奨学金の創設に寄せて

若き日、台湾からの留学生として、本学医学部で学んだ葉國璽氏。

平成21年度に新設された「葉國璽 私費外国人留学生奨学金」への思いや

「自身の学生時代、そして、整形外科医としての今後について語っていただきました。」

医療法人社団 錦昌会  
ちはら台整形外科院長

葉國璽  
(本学医学部卒業)

## 紆余曲折の若き日、 多くの人々に支えられて

私は台湾の花蓮で生まれました。22歳で台湾大学農学部卒業。当初の目標は、農学博士を取得して母校台湾大学農学部の教授でしたが、時代の変化が激しく、島国台湾の農業発展は極めて厳しくなりました。そのため、目標を変えざるをえませんでした。2年間の兵役を終えた後、一旦、アメリカへ渡り、カリフォルニア大学で国際関係論の勉強をしました。しかし、理系から文系へ転向しても興味がわかず、途中であきらめました。

途方に暮れていた時、台湾大学時代の恩師、豊地正枝先生・台湾大学日本語学教授や、日本へ留学経験のあった先輩の徐永銭教授の強い勧めで、昭和58年(1983)、交流協会の奨学金試験を受け日本に留学しました。この年、中学校の同級生だった妻林麗卿と結婚しました。当時、小学校の教師をしていた彼女は、私が台湾、アメリカ、日本と転々とする中、いろいろ苦勞をかけた。内助の功にとても感謝しています。

長崎大学医学部に入学したのは、昭和62年(1987)のことです。入学1年目の夏、長男が誕生。妻は翌年、長崎大学経済学部に入學しました。卒業までの6年間、夫婦とも毎日勉強、家事、育児、それにアルバイトで忙しく、同級生と

の付き合いもほとんどありませんでした。そんな中、多くの方々が優しく、心温かく励ましてくれました。お一人おひとりの顔をいまでもしっかり覚えており、その恩を忘れたことはありません。

## 心に残る医学生時代のエピソード

大学生活での唯一の楽しみは、後席の横路健君(広島大学病院皮膚科)と前席の山本浩一君(長崎大学病院小児科)と一緒に、昼休みに研究室に入入りすることでした。中でも、片峰茂先生の細菌学教室と、医動物学教室はもともとお世話になつたところです。研究室の先生たちとの交流はとても楽しく、過去、現在、未来の話を、豪快に縦横無尽に語り合いました。

私は、紆余曲折を経て、現役生に9年遅れて医学部に入学したわけですから、学生時代は一種のハンディを感じていました。しかし、それがかえって目的意識を明確にさせ、前向きに頑張る原動力になつたと思っています。

## 感謝の気持ちから、奨学金設立へ

今回、私の長崎大学への寄付金を、葉國璽私費外国人留学生奨学金として、活かしていただくことになりました。



左から葉國璽氏、片峰茂学長、小路武彦留学生センター長。昨年3月、東京で開催された「長崎大学全学同窓会・懇親会」にて。



長崎大学医学部

なぜ、母校に寄付しようと思ったかと申しますと、今日私が整形外科医として世の中に少しでも貢献できるのは、長崎大学が私を受け入れてくれたことがその原点にあるからです。入学以来、常に感謝の気持ちを抱き続け、いつか恩返しをしたいと思っていました。2008年、細菌学教室でお世話になった片峰先生が学長に就任なさった際、お祝いを兼ねて寄附をさせていただきましたが、長年の思いを叶える良いきっかけとなりました。

願わくば、留学生の皆様もいろいろな教室を出入りして、先生たちと盛んに交流し、人生の糧を得られればと期待しております。また、私の両親は、常にお世話になった人の恩を決して忘れてはならないと教えています。同じことを皆様にも伝えたいと思います。

## 整形外科医としての天命

現在、私は、千葉県市原市にて「ちはら台整形外科」を開業しております。また、隣接する千葉県緑区にて「千葉こどもとおとなの整形外科」も運営しております。少子高齢化を迎える日本の医療環境において、いかなる年齢層にもかわる整形外科は、その重要性は増すばかりです。整形外科病院の開設は私のライフワークでもあります。目下、千葉市に「葉整形外科病院(仮称)」の平成23年春の開院をめざして、多忙な日々をおくっています。

今年50歳で天命を知る私の目標は、「葉整形外科基金の設立」です。母国台湾や中国、日本の若手整形外科医の交流や交換留学を促進するための基金です。勤労して、感謝するのは私の座右の銘ちなみに、私の開院記念日は、11月23日の勤労感謝の日です。今後も、目標をめざして尽力してまいります。

## 「葉 國璽」私費外国人留学生奨学金について

本奨学金制度は、長崎大学の次期基本目標である「地球と人間の健康と安全」に資することを目的に、本学に在籍する私費外国人留学生で、学業、人物ともに優れ、かつ、経済的理由により修学又は研究が困難である者に対し、葉 國璽氏の協力により設立されたものです。

### 1 応募者及び受給者の資格

対象：大学院及び医学部医学科に在籍する私費外国人留学生  
資格：次の各号のすべてに該当する者

- ①学業、人物ともに優れ経済的理由により修学又は研究が困難な者
- ②研究科長又は医学部長の推薦のある者
- ③他の奨学金(貸与奨学金、奨学一時金及び研究助成金を除く)を受給していない者又は受給予定がない者
- ④配偶者がいる場合は、当該配偶者に月額10万円以上の収入がない者
- ⑤長崎大学の次期基本目標である「地球と人間の健康と安全」に関連する領域について学修又は研究する者

### 2 募集人員

11名  
医歯薬学総合研究科及び医学部医学科5名  
教育学研究科、経済学研究科、国際健康開発研究科より各1名  
生産科学研究科3名  
(原則として工学系・環境科学系・水産学系より各1名)

### 3 奨学金の額及び支給期間等

- ①給付月額 50,000円
- ②支給期間 受給者として決定した年の4月から3月までの1年間

平成21年度の募集は終了しました。平成22年度の募集期間や応募手続きなど、詳しくは所属部局の学務担当係までお問い合わせください。

～ 友好のかけ橋 ～

# 日中大学院生ジョイントセミナー

## 同濟大学(中国・上海)と長崎大学の交流

日中大学院生ジョイントセミナーの  
ロゴマーク  
China & Japan のCとJで  
形づくるGは、大学院生  
(Graduate Students)を  
意味する。



長崎大学



同濟大学

「日中大学院生ジョイントセミナー」は、  
同濟大学(中国・上海)と長崎大学で、  
毎年交互に行われている国際的なセミナーです。  
昨年10月、第6回目が  
長崎大学で開催されました。



熱烈歓迎。長崎空港に到着したばかりの同濟  
大学の皆さん(大学院生14人、教員2人)と。

第6回日中大学院生  
ジョイントセミナー  
実行委員長

**棚橋 由彦** 教授  
Tanabashi Yoshihiko



### 大学院生が 企画・運営するセミナー

「日中大学院生ジョイントセミナー」は、  
同濟大学大学院と長崎大学生産科学研究科の  
大学院生による催しで、お互いの研究成果を  
発表するシンポジウムを中心とした国際交流の場  
です。2004年に同濟大学で第1回目を開催して以  
来、毎年交互にホスト大学となり、今回で第6回  
目を迎えました。

このセミナーの大きな特長は、企画・運営  
のすべてを大学院生が行うという点です。  
日本に限らず、研究者として歩みはじめたばかり  
の大学院生たちは、国際的な場で発表する機会が  
少ないのが現状です。また、このような催しを  
大学院生が手がけるといふことも、ほとんど例が  
ありません。

開催する側の大学院生は、発表する論文を集める、  
シンポジウムの日程や会場を決める、スムーズな  
行程を考えるなど、相手の大学とメールで細かい  
やりとりをしながら準備を進めます。コミュニケーション  
は、すべて英語で行われるため、お互いの英語力  
の向上にも役立っています。

「日中大学院生ジョイントセミナー」は、  
参加者が研究面での刺激を受けるだけでなく、  
企画遂行能力の向上や、文化の異なる人間同士が  
ふれあい、友情を育む素晴らしい機会です。

# 第6回日中大学院生ジョイントセミナー

平成21年10月16日(金)～19日(月)

## 主なスケジュール

- 16日 出迎え、ウエルカムパーティー
- 17日 第6回日中大学院生ジョイントセミナー、バンケット
- 18日 水無川、雲仙岳災害記念館の見学
- 19日 見送り



中部講堂前にて記念撮影。参加者は総勢約50人。



オープニングセレモニー後、同済大学からの記念品を披露する片峰学長。同済大学学長代理の劉曙光教授(中央)、長崎大学の蔣教授(右)。



受付は工学部の4年生がお手伝いしました。



セミナーの進行役。両大学の2人が務めた。



発表された研究テーマは、土木工学、構造工学、海岸工学にちなんだもの。



ノーベル賞を受賞した下村脩先生がセミナーの会場に突然現れ、大学院生らに励ましの言葉を述べられた。予期せぬ出来事に、参加者は大感激。



英語による発表と討論が活発に行われました。

## セッション



## バンケット

お互いの人柄にふれて、絆がさらに深まりました。



言葉の壁を越え、同世代ならではの話で盛り上がりました。



セミナーを終え、先生方もひと安心。長年の親交をさらに深めて。

## 水無川・雲仙普賢岳見学

自然の脅威を目前にして、工学の重要性を再認識。



中国ではなかなか見ることのできない噴火災害の爪痕。貴重な体験となった。

しい機会にもなっています。この経験は大学院生たちが将来、国際社会で活躍していくにあたって、たいへん役に立つと期待されています。

## 教員同士の地道な交流をベースに

同済大学は、土木・建築分野において中国国内で1、2位を競うほどの実力を誇る大学です。長崎大学工学部との学術交流は、すでに17年前(1993年)からはじまっており、当初は教員を中心に学術訪問や講演、ジョイントシンポジウムが行われていました。教員レベルの地道な交流を重ねる中で、2001年には両大学間に学術交流協定が締結され、以来、歯学部水産学部など他の学部にも交流を拡大させていきました。そうした中、学生同士の交流も進めて行くという共通認識が生まれ、留学生の受け入れや、大学院生の共同指導などさまざまな学術交流が継続的に行われています。その一環として、「日中大学院生ジョイントセミナー」も開催されるようになったのです。

## アジア国際交流の拠点大学をめざして

同済大学との交流の大きな目的は長崎大学の教育・研究レベルの向上だけでなく、国際的に活躍できる人材の育成にあります。また、地理的にも近く、歴史的にもアジアと関わりの深い長崎大学が、こうした交流を今後も継続させることで、アジア国際交流促進において中心的役割を果たす大学という独自のスタイルを築くことに大きく貢献できると確信しています。

# 参加者の声



第1回から第6回までの論文集。  
開催する側の大学院生が制作する。



環境システム工学専攻  
博士前期課程2年

**吉田 敬一さん**  
Yoshida Keiichi

スケジュールづくりや、発表する教室の確保、論文の冊子の制作など、開催の準備は全て大学院生が行うためとてもたいへんでしたが、いい経験になりました。昨年は同済大学で発表者として参加しましたが、大学の広さや教育設備の充実ぶりに驚かされました。英語力は同済大学の方がレベルが高く、自分も頑張らなくてはと大いに刺激を受けました。



環境システム工学専攻  
博士前期課程1年

**辻 大志さん**  
Tsuji Hiroshi

今回、準備のため同済大学の方々とメールのやりとりをしたり、また長崎入りしたときの案内役を担当するなどしましたが、すべてにおいて英語に苦労しました。普段は外国の方々と接する機会はほとんどありませんから、とても為になったと思います。いっしょに食事をしたりする中で、国は違っても同世代として通じるものを感じ、うれしく思いました。



同済大学大学院  
修士課程2年

**沈 英婷さん**  
Shen Yingting

昨年、同済大学で行われたとき、長崎大学の発表に興味を抱き、チャンスがあれば学部や研究室を訪れてみたいと思っていました。今回、参加できて本当にうれしい。長崎は、緑が多く、空気も水もきれいですね。私は寮生活なのですが、日本の学生は普段どんな生活を送っているのか、たいへん興味があります。今回、ぜひ、聞いてみたいです。



システム科学専攻  
博士後期課程3年

**趙 程さん**  
Zhao Cheng

同済大学4年のとき、第1回目が開催され、準備を手伝いました。翌年、長崎大学で行われた第2回目にも参加したのですが、そのときの長崎大学の研究や先生方との出会いがきっかけで、3年前にこちらへ留学しました。このセミナーを通して、国を越えた生涯の友もできました。来春には、同済大学に教員としてもどる予定です。今後はお互いの大学、そして国同士のよりよい交流のために役に立ちたいと思っています。



同済大学大学院  
修士課程2年

**勾 鴻量さん**  
Gou Hongliang

同済大学では、このセミナーに参加したいという人が多いため、研究成果を出した人や成績が優秀な人が選抜されます。今回、参加できて光栄です。長崎に到着したとき、昨年のセミナーで知り合った人たちと再会し、古い友人にあったような気分になりました。ノーベル賞を受賞された下村脩先生にもお会いできて、本当にうれしかったです。

## 新たな展開をめざして

毎回このセミナーを通して感じているのは、一つは、国際交流の舞台に学生を立たせることの重要性です。発表・討論をきっかけに、相手の大学の研究に興味を持ち留学をする人、積極的に国際的な学会に参加しはじめた人、あらためて英会話を学ぶ人などがいます。また国境を越えて友情を育むなど、たいへんいい影響を及ぼしています。

一つ目は、長崎独自の土地柄をもっと活かしたいということです。鎖国時代は唯一の国際交流の窓口でした。時代とともにその役割は首都・東京に移っていきましたが、地理的には、長崎は東京よりもアジアに近いのです。その特長と、日中大学院生ジョイントセミナーの経験を活かし、今後は、韓国やベトナムなどアジア諸国との交流もめざしています。

また、工学部ではこれまでの国際交流の実績をもとに、「アジア循環型社会工学研究教育センター」が設置されることになりました。循環型社会の工学分野における途上国のリーダー的人材を継続的に育成する拠点をめざすもので、海外から優秀な留学生が集うことが期待されています。

これまで地道に回を重ねてきた、日中大学院生ジョイントセミナー。さらなる継続をめざすと同時に、日本とアジア諸国とのかけ橋となる新しい展開にも力を注いでいきたいと考えています。

第6回  
日中大学院生  
ジョイントセミナー  
実行副委員長  
蒋宇静 教授  
Jiang Yujing



# 交通の近代化と 東アジア国際リゾート・雲仙

明治後期から昭和初期にかけて、長崎港は北米航路、欧州航路、豪州航路、中国、朝鮮、ロシアとの航路で結ばれていた。当時、東アジアの諸国は欧米の統治下にあり、シंगाポール、ハノイ、マニラ、香港、上海、青島などには、欧米の領事や商人が駐在していた。熱帯モンスーンの蒸し暑い

地方で生活する欧米外国人の間で、雲仙温泉が知られるようになり、夏場の雲仙の外国人リゾート客が次第に増えてきた。長崎県はさらに多くの外国人を雲仙に滞在させるために、1911年(明治44)、ゴルフ場やテニスコートを備えた県営雲仙公園を整備した。



雲仙観光ホテル(国登録有形文化財)



新湯ホテル(1907年(明治40)築、絵葉書)



富貴屋ホテル(1915年(大正4)築、絵葉書)



雲仙の外国人向けのパンフレット(大正期から昭和初期)



外国人で賑わう雲仙(1934年(昭和9)頃、絵葉書)



橋本喜蔵  
(写真:長崎大学経済学部所蔵)



長崎大学経済学部瓊林会館  
(1919年(大正8)築、国登録有形文化財)



長崎日日新聞  
(1934年(昭和9)7月3日)

外国人温泉リゾートの開発

## (1) 東アジアの温泉リゾート・雲仙

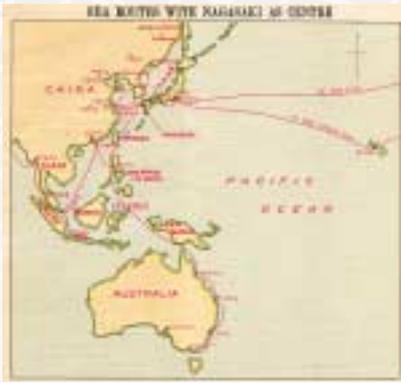
工学部教授 **岡林 隆敏**  
Okabayashi Takatoshi

明治中期になると、居留地の外国人の近郊への行動の規制が緩和され、外国人が自由に雲仙を訪れることができるようになった。そこで、外国人のためのホテルが必要になり、1883年(明治16)、雲仙で最初の外国人向けホテルである下田ホテルが開業し、明治30年から明治の終わり(1897年)1912年頃にかけて、雲仙ホテル、高木ホテル、有明ホテル、新湯ホテル、九州ホテル、富貴屋ホテルなどの建築が相次いだ。明治後期の雲仙温泉には外国人のためのホテルが集中し、雲仙は東アジアの国際リゾートに急成長した。

### 外国人で賑わった戦前の雲仙温泉

1923年(大正12)、日華連絡船が就航すると、東アジアの駐在欧米人が大挙して雲仙に押し寄せてきた。政府は外国人のホテル不足を改善するために、国際観光ホテルの設置に取り組んだ。長崎県でも政府の建設資金の融資を受け、1935年(昭和10)10月、「雲仙観光ホテル」を建設し、経営を大阪の堂島ビルディングでホテル経営の実績のある橋本喜蔵氏に依頼した。なお橋本喜蔵氏は1919年(大正8)、長崎大学経済学部研究館・同窓会館・瓊林会館の建物を寄贈している。

橋本喜蔵(1872(明治5)~1947(昭和22))大分県出身、長崎高等商業学校現長崎大学経済学部卒業。橋本汽船を経営し、橋本汽船(比呂)・堂島ビルディング(大阪)を建設し、海運業を中心に多方面で活躍した。政界にも進出し、長崎県選出の衆議院議員を務めている。



世界航路の中心に位置する長崎港  
(1918年(大正7))



石炭積み込み(チャイナ号(5,060トン)、パシフィック・メール汽船、1913年(大正初期)頃、絵葉書)



長崎港に停泊するエンプレス・オブ・ロシア号(16,850トン)  
(カナダ太平洋汽船、1910年(明治後期)頃、絵葉書)



ミネソタ号(20,602トン)×グレート・ノーザン汽船、1913年(大正初期)頃、絵葉書)



天洋丸(13,454トン)×東洋汽船、日本郵船、1913年(大正初期)頃、絵葉書)



博愛丸(2,629トン)×日本郵船、1913年(大正初期)頃、絵葉書)



日華連絡船上海丸(5,259トン)  
(日本郵船、1927年(昭和初期)頃、絵葉書)



日華連絡船長崎丸が接岸する出島岸壁  
(1935年(昭和初期)頃、絵葉書)



現在の長崎港出島岸壁(出島ワーフ)

## (2) 大型外国船が行き交った 長崎港

### 東アジアの結節点・長崎港

明治後期・大正期には、長崎港は地図に見られるように、日本の海外航路の結節点であった。写真の巨大客船は、南山手沖に停泊する、カナダ太平洋汽船のエンプレス・オブ・ロシア号(16,850トン)である。長崎港周辺では良質の石炭が採掘されたので、石炭積み込みが見ものであった。写真はグレート・ノーザン汽船のミネソタ号(20,602トン)の石炭積み込みである。天洋丸(三菱造船所・1908年竣工・13,454トン)は東洋汽船のサンフランシスコ航路の船、博愛丸(日本郵船)は、上海航路(横浜・長崎港経由)の船である。

### 日華連絡船で賑わう長崎港

出島の地先が埋め立てられ、出島岸壁が、1924年(大正13)に完成すると、長崎港に大型船が接岸できるようになった。工事途中の1923年(大正12)2月に日華連絡船長崎丸が就航した。1930年(昭和5)、岸壁付近に長崎港(みなと)駅が開設され、下駄を履いて上海へ行ける便利な施設が完成した。下段の左の写真は上海丸(5,259トン)、中央は出島岸壁に接岸する長崎丸、右の写真は、現在の出島岸壁である。長崎丸上海丸は多くの日本人を上海に運び、帰りには満杯の温泉リゾート客を雲仙に連れてきた。



早岐駅 1897年(明治30)築)



1925年(大正14)鉄道地図



大村駅 1918年(大正7)築)



大草駅・本川内駅間の盛土と山川内袴川橋  
(1898年(明治31)建設)



南風崎隧道(1897年(明治30)建設)



的場橋(1898年(明治31)建設)



千々石第3隧道(1927年(昭和2)建設、旧小浜鉄道・廃線)



福井川橋梁  
(1939年(昭和14)建設、旧国鉄伊佐線・現松浦鉄道)



四反田橋橋台  
(1920年(大正9)頃建設、旧佐世保鉄道・廃線)

### (3) 長崎県の鉄道近代化遺産

日本の最西端を目指し九州鉄道長崎線の工事は、1892年(明治25)鳥栖から開始された。長崎線は1898年(明治31)に全通したが、現在の長崎駅まで延長したのは1905年(明治38)のことであった。1934年(昭和9)有明西線が開通し、この線が長崎本線になると、大村線・旧長崎線の施設は建設当時の姿で残されることになった。早岐駅・大村駅などの駅舎、大草駅・本川内駅間の盛土、南風崎隧道や的場橋などの施設を創建当時の姿で見ることが出来る。雲仙鉄道(1923年(大正12)一部供用、1938年(昭和13)廃線)、佐世保軽便鉄道(1920年(大正9)開通)など、私鉄も建設され、国鉄松浦線・現松浦鉄道も順次延長され、県内の隅々まで鉄道が巡らされた。廃線後の雲仙鉄道の千々石第3隧道や、竹筋コンクリート造と言われる松浦鉄道の福井川橋梁、佐世保軽便鉄道の四反田橋橋台などを今でも見ることが出来る。

### (4) 近代化遺産の文化財指定と観光への活用

東アジアに近い地勢にある長崎県には、他の県にない多彩な近代化遺産が保存されている。これらの近代化遺産を次の世代に継承するためには、まず国指定重要文化財などの文化財に指定することが必要である。また、社会教育の教材として、観光資源として活用し、町おこしの核として活用することが重要である。碓氷峠(群馬県)や富岡製糸場(群馬県)などは、観光スポットとして賑わっている。近代化遺産を次の世代に継承し、活用するための学際的な研究が今後の課題であると思われる。



### 平成21年度「夢募集」表彰式を実施

9月16日、平成21年度「夢募集」表彰式を実施しました。今回で11回目となる「夢募集」の企画大賞は、工学部3年生松本峻さんの「長大生協食堂の庭に本格的なウッドデッキを築造する」が受賞しました。大学食堂を利用する仲間のための「混雑解消」と企画されたものです。  
3月頃完成予定。

### イサハヤ電子株式会社と産学連携の協力推進に係る協定」を締結

9月30日、イサハヤ電子株式会社と産学連携の協力推進に係る協定を締結しました。本学が民間企業とこのような協定を締結するのは初のケースであり、また、イサハヤ電子株式会社も、長崎県内の大学と協定を締結するのは初のケースです。

調印式では、関係者の見守る中、片峰学長とイサハヤ電子株式会社の井寄春生社長が協定書に署名しました。

今回の協定締結により、地域の産学連携を推進し、地域企業と学術の発展に寄与することが期待されます。



握手を交わす井寄社長と片峰学長

### 歯学部創立30周年記念事業を挙げる

10月3日、歯学部創立30周年記念事業を挙行しました。歯学部は、1979年昭和54年(10月)に創立され、30周年を迎えました。記念事業として、医学部記念講堂にて「食・健康・文化」をテーマに、新潟大学の安保徹教授と京都大学の北畠直文教授の講演が行われました。式典や祝賀会も行われ、多数の学内外関係者の出席のもと、盛大に祝いました。



鏡開き

### 「長崎の鐘」贈呈式を挙げる

10月13日、医学部において、医学部有志によるアンリ・デュナン博物館スイス連邦ハイデンへの「長崎の鐘」(レプリカ)の贈呈式を挙行しました。贈呈式には、アンリ・デュナン博物館から4人の代表者が来訪し、医学部教職員、学生、学外関係者など約100人が出席。「長崎の鐘」の除幕、記念プレートの贈呈、聖マリア学院の児童による「長崎の鐘」の合唱などが行われました。最後に、「長崎の鐘」の音が披露され、同博物館のジョン・ポイイ氏は、世界共通の平和のシンボルであり、心に響く鐘の音である。」と感動されていました。



「長崎の鐘」の除幕

## JELLY FISH PROJECT に関する協定を締結



協定書に署名した寺田隆土教育長と片峰学長

10月16日、長崎県教育委員会「JELLY FISH PROJECT」と名付けられた未来の科学者発掘プロジェクトに関する協定を締結しました。

本プロジェクトでは、昨今の理科離れ抑止のため、高校生対象のオープンラボ、小・中学校を巡るサイエンスカーラボ、小・中・高校の理科科目担当教員を対象とした、理数教師塾などを計画しています。

今回の協定締結により、長崎県内の児童・生徒の自然科学教育（理数教育）の更なる充実、及び本学と長崎県教育委員会の連携強化が期待されます。

## GPUクラスタによる計算が ゴードン・ベル賞を受賞

工学部の濱田剛テュア・トラック助教を中心とした研究グループは、256台のGPU（ゲームの描画処理用のプロセッサ）として発展し、コストパフォーマンスに優れたグラフィックス向けプロセッサ）を並列に動作させることで、天文学・流体力学への応用計算において42テラフロップス毎秒42兆回計算の実行性能を達成し、その研究成果により、研究論文を執筆しました。

この研究論文は、2009年8月、高性能計算の世界で最も権威のある賞の一つであり、スーパーコンピュータ界のノーベル賞とも言われる「ゴードン・ベル賞」のファイナリスト（最終候補）に選ばれていましたが、その後、11月14日から20日にかけて開催された国際学会「Supercomputing 2009」（アメリカ合衆国・オレゴン州ポートランド市）において同賞の受賞が決定し、19日に表彰されました。

現在も、研究が進められており、380台のGPUの並列動作により、158テラフロップスの実効性能を達成しています。工学部では引き続き、GPUの科学計算に向けた応用研究を進めていきます。



濱田剛テュア・トラック助教

濱田先生の研究についてはCHOHO28号で紹介しています。

## 第1回長崎大学 ホームカミングデーを開催

11月21日、中部講堂を主会場として、第1回長崎大学ホームカミングデーを開催しました。

これは、卒業生に、母校長崎大学に帰ってきてもらい、大学の近況に触れ、懐かしい恩師や学友と再会し、交流、親睦を深めてもらおうと、本学の学園祭「長大祭」に併せて開催したもので、同窓生約200人が参加しました。

会場では、吹奏楽部の演奏、片峰学長の歓迎の辞、石哲哉全学同窓会会長の挨拶と続き、チャリティーディング部が会場に花を添えました。

続いて、合田敏行NHK長崎放送局長が大河ドラマ「龍馬伝」について、「有吉熱帯医学研究所教授が長崎を日本と熱帯地の架け橋」と題して、講演を行いました。

夕刻からはホームカミングデーをサポートした学生も参加し、ホームカミングデーパーティーが学生会館食堂にて開催されました。在学生と同窓生、学部など同窓会の垣根を越えた歓談の輪ができ、ロマンツァー合唱団と、よさこい部、突風が会場をさらに盛り上げました。



# Bauduin Collection

Photograph Collection of Japan in Bakumatsu-Meiji Period

ボードイン・コレクションとは、幕末・明治に西洋医学の指導者として来日したオランダ人のアントニウス・ボードインが、オランダ領事であったその弟アルベルト・ボードインと協力し、日本滞在中に撮影および収集した古写真アルバムです。  
(長崎大学附属図書館所蔵)

ネット上でも閲覧できます。  
日本古写真アルバムボードイン・コレクション  
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/bauduin/>

## 幕末・明治を知る西洋の男たち

4

経済学部教授  
柴多 一雄  
Shibata Kazuo

### 若き日のトーマス・グラバー

トーマス・ブレイク・グラバーは、一八三八年、スウェーデンのアバディーン州で八人兄弟姉妹の五番目として生まれた。ギムナジウム中等教育機関を卒業後、上海に渡り、安政六年(一八五九)九月、二一歳のとき開港後まもなく長崎に到着した。スウェーランド出身の貿易商マッケンジーのもとで二年間ほど働いたのち、独立してグラバー商会を設立し、ジャーディン・マゼソン商会などの長崎代理店となった。

当初は茶の再製・輸出などを主に行っていたが、幕末の政治的混乱を背景に艦船や武器類を薩摩藩や長州藩などの諸藩に売り込んで大きな利益をあげ、長崎屈指の貿易商となった。とくに薩摩藩とは深い関係を持ち、五代友厚・森有礼・寺島宗則ら薩摩藩の海外留学生の派遣を助けたりしている。

長崎に来て四年目の文久三年(一八六三)グラバーは長崎湾を見下ろす南山手の丘の上に邸宅を建築した。写真はこの頃撮影されたもので、貿易商として大きな成功をおさめた二五歳頃のグラバーを写している。

慶応元年(一八六五)には、大浦海岸において日本で初めて蒸

気機関車アイアン・デューク号を走らせた。明治元年(一八六八)には佐賀藩との合併で高島炭鉱の開発に着手し、薩摩藩と協力して小菅に日本最初の洋式ドックを建設している。

しかし、内戦の終結によって武器類が売れなくなったりことや諸藩からの資金回収が滞ったことなどからグラバー商会は経営危機に陥り、アルベルト・ボードインが総代理人をつとめるオランダ貿易会社に高島炭鉱を抵当に債務を肩代わりしてもらったが、債務を返済する資金のめどがつかず明治三年に倒産した。

グラバー商会倒産後も、グラバーはオランダ貿易会社と佐賀藩の共同事業となった高島炭鉱の操業に従事していたが、明治政府が外国人の鉱山所有権を法的に禁止して、高島炭鉱が政府に買収されたため明治九年(一八七六)東京に転居した。しかし、その後ふたたび長崎にもどり、後藤象二郎が政府から払い下げられて経営していた高島炭鉱の支配人に就任した。

明治一四年(一八八一)に三菱の岩崎弥太郎が高島炭鉱を買収すると、グラバーも三菱会社に入り、三菱の顧問となった。明治

一九年頃からはふたたび東京に転居し、横浜にあった日本最初のビール工場を買収してジャパンプルワリー・カンパニー(現キリンホールディングス)の設立に尽力するなどした。

グラバーは、五代友厚の紹介で日本人女性ツルと結婚し、二人の子供八人、富三郎)をもうけている。明治四一年(一九〇八)には外国人として初めて勲二等旭日重光章を授与され、明治四四年(一九一)東京の自邸で没した。七三歳であった。長崎市の坂本国際墓地に葬られている。

#### 古写真データ

目録番号: 6246  
撮影者: A. F. ボードイン  
アルバム名: ボードインコレクション(2)  
撮影地: 長崎  
年代: 1863  
色彩: モノクロ  
形状: 116x166  
整理番号: 122 42 0  
キーワード: ボードインコレクション



Thomas Blake Glover (1838 ~ 1911)

貿易商として成功をおさめた若き日のグラバー。倒幕派を支援し、大きな利益をあげた。

## 編集後記

昨年は、政権交代という大きな「チェンジ」がありました。大学も近年、法人化というチェンジがあり、第1期の中期目標・中期計画が終了して、平成22年度から第2期目がスタートいたします。特集では、社会が大きく変化する中で、長崎大学は教育・研究の場として何を目指しているのか、また、国際貢献、地域貢献における具体的な目標や将来像について、学長をはじめとする先生方に語っていただきました。

母校への感謝の気持ちから寄付をいただき、「葉 國璽」私費外国人留学生奨学金が創設されました。また、学生の活躍として、学生国際NGO「BOAT」および「日中大学院生ジョイントセミナー」を紹介いたしました。長崎大学の卒業生、現役学生とそれぞれ立場は異なりますが、いずれも頼もしく、心温まる話題です。

本年も明るく、素晴らしい話題を皆様に提供できる年でありたいと願っております。  
(原田哲夫)

[編集・発行]

長崎大学広報企画委員会  
(広報誌企画・編集専門部会)

[部会長]

原田 哲夫 (工学部教授)

[委員]

堀内 伊吹 (教育学部教授)  
吉田 高文 (経済学部教授)  
高橋 和雄 (工学部教授)  
池田 幸恵 (環境科学部准教授)  
小林 信之 (医歯薬学総合研究科教授)  
池田 正行 (医歯薬学総合研究科教授)  
堀尾 政博 (熱帯医学研究所教授)  
佐々木 均 (病院教授)  
光石 恭典 (総務部総務課長)

TEL. 095-819-2018

FAX. 095-819-2024

<E-mail>

www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日]2010年1月1日



## 入学試験情報

### ■大学入試センター試験

本試験実施日 1月16日(土)、17日(日)

追試験実施日 1月30日(土)、31日(日)

### ■長崎大学一般入試

出願期間 1月25日(月)～2月3日(水)

#### ●前期日程試験

実施日 2月25日(木) ※医学部医学科は26日(金)まで実施

合格発表 3月7日(日)

入学手続 3月14日(日)、15日(月)

#### ●後期日程試験

実施日 3月12日(金)

合格発表 3月21日(日)

入学手続 3月26日(金)、27日(土)

3/25  
(THU)

## 卒業式

日時 3月25日(木)10時から

場所 長崎ブリックホール

4/2  
(FRI)

## 入学式

日時 4月2日(金)10時から

場所 長崎ブリックホール

## 第5回わっかもん!ASIA 舞踏祭

長崎大学などの学生が中心となって立ち上げた賑やかな祭りです。いろいろな踊りのチームが集まって、多彩な演舞を披露します。

日時 3月6日(土) 10時30分～20時

場所 長崎水辺の森公園、三角広場

ホームページ <http://wakkasaiwakkasai.hp.infoseek.co.jp/>

## リユース市

長崎大学の環境系サークル「つじやすみん」が、卒業生の不要になった家具や家電を回収し、きれいに掃除して新入生に提供します。

日時 3月27日(土)、28日(日) 10時～14時

(※雨天時予備日: 3月29日(月)、30日(火))

場所 中部講堂前

表紙  
について

「冬のゴメリ」

チェルノブイリ原発事故の被災地のひとつ、ベラルーシ共和国ゴメリ。1999年冬、ゴメリ州立特別診断センターと長崎大学医学部が、衛星通信を介した国際遠隔ヒバクシャ医療診断支援のネットワークを、日本財団、笹川記念保健協力財団のサポートのもと開通しました。この絵は、開通記念にゴメリ州知事が日本財団会長に寄贈したもので、その後、長崎大学に譲与されました。雪に包まれたゴメリの街の風景は、マイナス20度の中で開通したその日を彷彿させます。



読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より充実したCHOHOを目指します。  
大変お手数ですが以下のアンケートにお答え下さい。  
ご回答はFAX(095-819-2024)をお願いします。  
なお、E-mail(www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp)でも受け付けております。

[年齢] 歳 [性別] 男・女

1 今回よかったコーナーに✓をつけて下さい。(複数回答可)

- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 【特集】地域へ、世界へ、発信する「知」<br>長崎大学がめざすもの  | <input type="checkbox"/> 【長崎県の近代化遺産シリーズ4】<br>交通の近代化と東アジア国際リゾート・雲仙        |
| <input type="checkbox"/> 【学生国際 NGO BOAT の<br>「3カ月里親プロジェクト」】 | <input type="checkbox"/> 【長大ニュース】  |
| <input type="checkbox"/> 【「葉 國璽」私費外国人留学生奨学金の創設に寄せて】         | <input type="checkbox"/> 【ボードイン・コレクション】<br>幕末・明治を知る西洋の男たち④ 若き日のトーマス・グラバー |
| <input type="checkbox"/> 【日中大学院生ジョイントセミナー】                  | <input type="checkbox"/> 【インフォメーション】・【編集後記】                              |

2 今回の内容はどうでしたか? ✓をつけて下さい。

- やさしい ふつう 少しむずかしい むずかしい わからない / おもしろい ふつう つまらない

◎ご意見・ご感想をお書き下さい。.....

3 今後読んでみたいテーマなどありましたらご記入下さい。

ご自由にお書き下さい。

4 CHOHO をどこでご覧になりましたか?

5 その他、大学に対するご意見・ご要望がありましたらお聞かせ下さい。

ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

長崎大学広報企画委員会(広報誌企画・編集専門部会)  
〒852-8521 長崎市文教町1番14号 TEL095-819-2018  
(E-mail)www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp